

第十三章 子なる神・聖徒を従えての再臨

I キリストの再臨の前に起こる重要な出来事

教会の携拳とキリストの再臨の間は3つのはっきりと定義される期間に分けられる。

1、携拳の後に、10の国家が古代ローマ帝国を復活させたような連邦を形成する準備期間。ここから一人の独裁者が出て、最初に3カ国、次には10カ国全部を支配するようになる。(ダニ7:7、8他)

2、この独裁者によって、地中海地方に平和な期間がもたらされる。それはイスラエルとの契約から始まる。(ダニ9:27)

3、独裁者が3年半で契約を破ると、イスラエルおよびすべての聖徒たちに対する迫害の期間がやって来る。同時に彼は世界的な独裁者となり(黙示録13:7)、彼自身を拝ませようと(黙示録13:8、Ⅱテサ2:4)、世界中の宗教を禁止する。また全世界の商取引の支配権を奪ってだれも許可なしには売買ができなくなる(黙示録13:16、17)。

この3年半の時代を大患難時代という。(ダニ12:1、マタ24:21、黙示7:14) この時代は世界大戦で頂点に達する。(黙示16:14-16) そのとき、キリストが聖徒を救い、地にさばきをもたらし、義の王国を建てるために再臨される。であるから、これらのことがまだ起こっていない以上、キリストの再臨がいますぐにでも起こるとは考えられないのである。

II 再臨に関係する重要な諸事実

1、聖書はキリストが地上に、ご自身で、天の雲に乗って戻って来られ、それは全世界の人々が目撃する出来事であると教えている。(ゼカ14:4; マタ25:31、黙示19:11-16; マタ24:30、使徒1:11、黙示1:7)

2、マタイ24:26-29によれば、主の栄光の現れは東から西にひらめく稲妻のようである。これに先立つ日々は「これらの日の苦難」と書かれている。

3、地上への再臨の折に、キリストは居並ぶ聖徒や御使いたちを従えて、劇的にやってくる。(黙示19:11-16)

4、再臨されたキリストはまず、戦いに加わっている。世界中の軍勢をさばかれる(黙示19:15-21)。そして、イスラエルを集めさばかれる(エゼ20:34-38)。同じように異邦人をさばかれる(マタ25:31-46)。その後、キリストは義と平和の王国を地上にもたらされる。サタンはしばられ、あらゆる反抗がさばかれる。

Ⅲ 携拳と再臨の対比

前回で見たように、聖徒のための再臨（携拳）と聖徒を従えての再臨（地上再臨）との間には、多く対比される違いが存在するのである。

携拳（空中再臨）	再臨（地上再臨）
①「私たちがみもとに集められること」	①「私たちの主イエスキリストが再び来られること」（Ⅱテサ 2：1）
②キリストは「明けの明星」として来られる。 （黙示 2：28、22：16、Ⅱペテ 1：19）	②「義の太陽」として来られる。 （マラ 4：2）
③「主イエス・キリストの日」 （Ⅰコリ 1：8、Ⅱコリ 1：14、ピリ 1：6、10、2：16）	③「主の日」（Ⅱペテ 3：10）
④しるしのない出来事	④それが近づくのを観察することができる （Ⅰテサ 5：4、ヘブ 10：25）
⑤時間のない出来事（切迫している）	⑤その前に預言が成就する
⑥悪についての言及がない	⑥悪はさばかれる （Ⅱテサ 2：8、黙示 19：20、20：1-4）
⑦イスラエルは変わらない	⑦イスラエルのすべての契約が成就する（エ レ 23：5-8、30：3-11、31：27-37）
⑧教会が地上から取り去られる	⑧キリストとともに戻ってくる（Ⅰテサ 4：17、ユダ 14、15、黙示 19：14）
⑨すべての国々の民は変わらない	⑨彼らはさばかれる（マタ 25：31-46）
⑩被造物は変わらない	⑩滅びの束縛から解放される （イザ 35 章、65：17-25）
⑪「奥義」	⑪旧約、新約を通して見られる （ダニ 7：13、マタ 24：27-30、Ⅰコ リ 15：51、52）
⑫キリストを中心とする希望「主は近い」 （ピリ 4：5）	⑫御国が来る（マタ 6：10）
⑬キリストは花婿、主、教会のかしらとして現れる（エペ 5：25-27、テト 2：13）	⑬キリストは王、メシヤとしてイスラエルに現れる（イザ 9：7、11：1-10）
⑭キリストの来臨はこの世には見えない	⑭力と大いなる栄光をもっての来臨 （マタ 24：27、30、黙示 1：7）
⑮クリスチャンがその報いに関してさばかれる	⑮すべての国々の民が王国に関してさばかれる（マタ 25：31-46）